

心からの礼拝

イザヤ書 29 章 13 節にこうあります。

主は言われた。「この民は、口でわたしに近づき／唇でわたしを敬うが／心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを畏れ敬うとしても／それは人間の戒めを覚え込んだからだ。

これは神ご自身が、当時のイスラエルの民の信仰の形骸化に対して告げられた厳しいお言葉です。今の私たちもそうなのかもしれません。外見上は礼拝しているようであっても、その心は神から遠く離れており、実際には人間のやり方や教えを型的に守っているだけ。つまり、彼らの礼拝は見せかけの信仰、慇懃無礼な態度であったのです。私たち自身も、慇懃無礼な態度や言葉遣いには嫌気がさします。

このイザヤの言葉は、現代に生きる私たちにも深く問いかけます。私たちも、週に一度、教会に出席し、皆と讃美歌を歌い、祈りをささげています。しかし、その心はどうでしょうか。礼拝中に別のことを考えていないでしょうか。形式だけを守り、神との真実な交わりを忘れているでしょうか。

イエスも、このイザヤの言葉を引用し、ファリサイ派や律法学者たちに対して次のように言われました。「この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとして教え、／むなしくわたしをあがめている」(マタイ 15 : 8～9)。

彼らは清めの儀式や伝統を厳密に守ることで「敬虔」を装っていましたが、神への愛や隣人への思いやりという最も重要なことを軽視していたのです。真の信仰は、行動ではなく、心の在り様から始まるのです。

神は私たちに、表面的な礼儀正しさの仮面を求めてはおられません。神が求めておられるのは、「砕かれた霊」「打ち砕かれ悔いる心」です(詩編 51:19)。神の前に出るとき、取り繕う必要はありません。人に聞いてもらおうとするカッコイイ祈りもいりません(結構、このような上から目線の祈りをする人が多い)。むしろ、ありのままの罪深く、弱さを抱えたままの、心から神を求めることを、主は喜ばれるのです。

→詩編 51 : 19

しかし、**神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を**／神よ、あなたは侮られません。

→詩篇 51 : 17 (口語訳)

神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心を／かろしめられません。

形式的な礼拝や人の目を気にした信仰は、やがて空虚になり、徐々に教会から離れてしまうことになります。そこには命がなく、成長も癒しもないからです。

真実な礼拝とは、「心を尽くし、精神(魂)を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、神を愛することから始まります(マルコ 12:30)。

→マルコによる福音書 12 : 30

心を尽くし、精神(魂)を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。

今一度、このイザヤの言葉(29 章 13 節)を胸に刻みましょう。神は、私たちの口先ではない、心からの礼拝と従順を求めておられます。

どれほど雄弁に祈り、どれほど敬虔に見えても、心が神から離れていれば、私たちの信仰は空虚なものとなります。

どうか、私たち一人ひとりが、神の前に真実な心で立ち、神に近づく者となれますように。

そして、神の恵みと御言葉に根ざした礼拝者として、日々を歩んでいけますように、祈りたいと思います。